

危険防止で「おにクル」に提案

阪田 浩

街 ing の 12 月例会は、完成したばかりのおにクル 7 階で実施しました。例会終了後、館内の他のフロアも見学しました。その際、館内にあるガラスの危険性に気づきました。ガラスは壁や扉に使用すると明るさを確保できますが、存在感が薄れますので人間がぶつかる恐れがあります。後日、この危険性を市役所の担当課に申し入れました。その結果、約 1 か月後、衝突防止シールを貼っていただきました。現在、全館にわたり該当ガラスには、シールが貼られています。これにより衝突事故はかなり防げることになると思われます。もっと目立つシールのほうがよいのか否か、今後の様子を見ることになりそうです。



当初のおにクル。
 ガラスにシールがない。

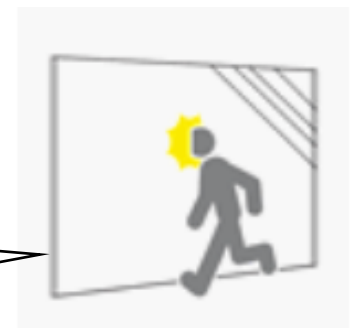


衝突防止
 シールを貼っ
 たおにクルの
 テラス



鳥のシールを貼った商品見
 本。今回のおにクルでは
 採用なし。

ガラスと衝突する
 イメージ図



ガラス

茨木市内環状モノレール計画

現在茨木市内には、モノレールが走っています。このモノレールは大阪府が出資する大阪モノレール株式会社が運営しています。このモノレールとは別に、茨木市内を環状で結ぶモノレールの建設計画が持ち上がっています。名称は「北大阪環状モノレールプロジェクト」茨木商工会議所に準備室が設けられています。

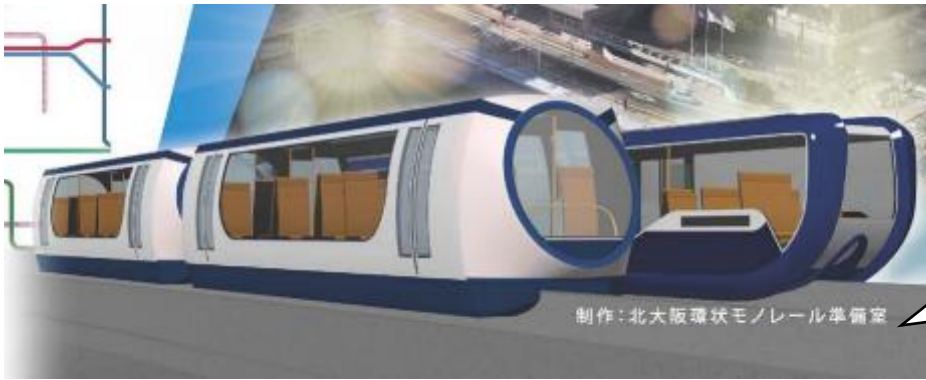
このモノレールが開通すれば、さらなる街の活性化と、移動の便利性の向上が期待されます。計画では通勤や観光の拠点となる 8 つの駅が設置される予定です。これにより、茨木市内の主要なエリアが簡単にアクセス可能となり、住民や訪れる観光客が円滑に移動できることとなります。また、新しい駅が生まれることで、それぞれのエリアが活気づき茨木市全体の発展も期待できます。

モノレール準備室の委員長を務めている方に直接話を聞く機会がありました。それによると実現は 10 年後、運営主体については大阪モノレール(株)などを候補にあげ交渉を今後はじめていくとのこと。路線の起点は南茨木駅。一周約 30 キロ。内回りと外回りがあり一周を 60 分で結ぶ計画です。設置予定駅は南茨木・JR 茨木・彩都西・忍頂寺・安威川ダム・山手台サニータウン・西河原・茨木シティ(おにクル前)。市街地は、桜通りと川端道りの上を通る構想です。

計画が進む中で、住民や関係者の積極的な意見交換が求められることとなります。次の茨木市へ向けた大きな一歩として、環状モノレールの実現に期待しましょう。

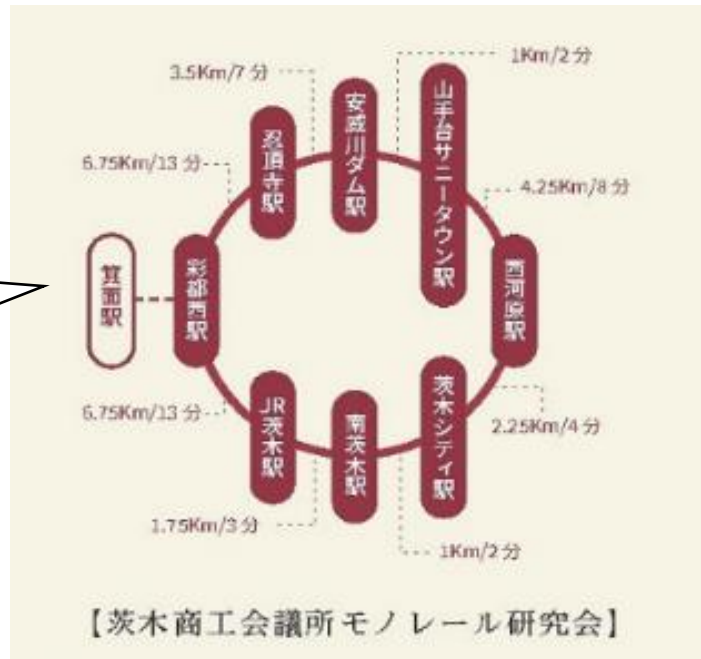
以下、北大阪環状モノレール準備室ホームページからの画像を掲載します。





車両のイメージ図

8 駅を設置、将来的には阪急箕面駅とも結びます。



おにクル前を走るイメージ図

明治の偉業 琵琶湖疎水

南野 利江

琵琶湖疎水遊覧船に乗ってきました。琵琶湖の水を京都まで取り入れる琵琶湖疎水は、当初水運として使われていましたが 自動車の発達に従い閉鎖され今から 5 年前に、70 年の年月を経て観光用として復活したものです。のんびりとした風景を堪能したと同時に、歴史の偉業を感じる一時間でした。

京都は明治維新によって多くの家が焼け 東京遷都によって人口も急減し、産業はすたれる一方でした。そこで第 3 代京都府知事となった**北垣国道**は 琵琶湖から水を引く「**疎水**」を開くことを計画、京都の産業を復興しようとしていました。 京都府の予算の 2 年分もの膨大な費用を使っての前代未聞の大工事です。その工事の責任者に、工部大学校（現在の東京大学工学部の前身）を卒業したばかりの若干 21 歳の**田辺朔朗**を抜擢しました。明治 18 年に工事が開始され、のべ 400 万人の作業員を動員し、特に 2436m にも及ぶ逢坂山のトンネル工事は困難を極めました約 5 年かかり、明治 23 年に第一疎水が完成しました。当時、外国の技術に頼っていた時代に、すべての行程を日本人の手のみで行ったのは 日本で最初の画期的な土木事業といえるそうです。最初の計画では水車での発電でしたが 田辺朔朗は 水力発電に変更することを強力に主張し、知事を強く説得しました。 その変更は 大きく京都の発展へとつながります。

完成により大津から京都を経て大阪までの船運が開き 物流の拡大により 経済と産業の発展につながりました。 また 防火用水として「御所水道ポンプ室が」が設けられています。



第一トンネル



春の遊覧船。



第三トンネル

その後 水の需要が広がり第二疎水が計画されます。西郷隆盛の息子である **西郷菊次郎**が京都市在任中に「京都百年の大計」とし **第2琵琶湖疎水の建設・上水道の布設・市電の敷設**の三大事業をかかげ、その実現のため奮闘しました。明治41年に着工し、7年をかけて 完成し、蹴上の浄水場がつくられ 京都に水道の水がいきわたり始めました。

明治24年、田辺朔朗が強力に推し進めた「水力発電」ができたことは、我が国文明史に大きな足跡を残しています。発電所から送られる電気は、電灯をともし 中小企業が機械化し 明治28年には、京都駅～伏見間に路面電車が開通しました。これは日本で初めての電気による路面電車として注目されています。(新橋横浜間は蒸気機関車です。) こうして、琵琶湖疎水は 京都の経済や産業を発展させ 人々の生活文化の向上に大きく貢献しました。

その後 疎水の分線が延ばされ、大文字(如意岳)の山麓に沿って、南禅寺、若王子、吉田山の東北を経て、高野、下鴨、堀川と、南から北へ、その後西へ流れていきます。南禅寺 哲学の道 そして 山形有朋の「無鄰菴」「平安神宮」「小川治平の庭園」など 疎水の水を引き入れた名庭園、名所は、今も多くの人に愛されています。

琵琶湖から京都に、毎日、命の水が約200万立方メートルも送られてきますが、京都市は滋賀県に対して年間2億3千万円の礼金を支払っているそうです。それはさておき 70年の時を経て復活した遊覧船に乗り、北垣国道と田辺朔朗 そして西郷菊次郎の壮大な計画と偉大な功績に感銘しました。



南禅寺水路閣。



秋の遊覧船。



インクライン 桜の名所

外来種ハッカチョウ

吉田 恭三

約40年前、単身で中国北京に駐在していた頃、いまだテレビもなく休日の娯楽に事欠くありさまの時気晴らしがてら近くの公園に行くと老人が三々五々に集まってきて鳥の鳴き合わせ会に興じていた。老人はそれぞれに自慢の鳥を鳥籠に入れて持ち寄り、誰の鳥が上手に長く鳴くかを競い優劣をつけている。その競い合う鳥の中で種類としてはハッカチョウが一番多かった。日本でも古くは江戸時代以前よりうぐいす、メジロなどの鳴き合わせ会が盛んであったが昭和に入り鳥獣保護法が制定され野鳥の捕獲、飼育は禁止され鳴き合わせ会は消滅した。



ハッカチョウは中国南部よりタイ、ベトナムなど東南アジアに生息し中国では愛玩鳥として飼育され、古くは宋時代の中国絵画にもよく登場するおなじみの鳥である。声は外見に似ず澄んで綺麗で且つよく通り又物真似上手で他の鳥の声や獣、はては人語までも真似る。

時が移りこの懐かしい鳥が我が国の野外で見られると言う情報を野鳥の会の仲間から得て早速高槻の淀川の土手を探索すると、川岸に全身真っ黒で鼻の先の毛が前方へ飛び出ている特徴を持つハッカチョウを発見、懐かしく旧友に再会した思いであった。聞くところによるとこの淀川流域で既に繁殖もしており現在では北海道を除く多くの地域で繁殖、生息しているとのことであった。

このように日本に定着するきっかけとしては当初迷鳥として台風などで運ばれてきて住み着くか或いは飼育籠から逃げ出て土着したものが考えられるが繁殖するまでになるのは後者のケースであろう。

日本で今までに確認されている野鳥の種類は約650種に及ぶがそのうち大阪では定着している外来種の種類は12種類程度のものである。

外来種の種類によっては魚の外来種ブルーギルやアメリカアカミミガメのように我が国の在来種の生態系を崩し延いては駆逐することにもなりかねないのでむやみに移入することは問題ではあるが新しい種類が増え耳や目を楽しませてくれるのは有難い。



ミツバチを「魚の一種」と認定した理由

杉田 宗三

昨年5月、米国カリフォルニア州の裁判所でミツバチを魚の一種と認める判決が下された。もしかするとこれが人類の未来を救う判決として歴史に刻まれる可能性もある。

この裁判では、カリフォルニア州の環境保護団体が、同州の絶滅危惧種保護法（California Endangered Species Act、以下CESA）のもとでミツバチの一種であ

るマルハナバチを保護対象とするよう求めたもので、訴えを認める判決が下された。CESAでは「魚」を保護対象としており、さらには「魚には軟体生物、甲殻類、無脊椎動物が含まれる」と定義されていることから、無脊椎動物の一種であるマルハナバチは保護対象となるというわけだ。これにより農薬の使用等に制限が及ぶことを懸念する農業団体は、この判決を不服として控訴しており、現在も係争中である。



この裁判の背景にあるのは、2000年代になって世界各地で散見される飼育用ミツバチが突然いなくなる「蜂群崩壊症候群」だ。米国では2018年の1年間にミツバチの群れの40%が失踪したとの報告もある。いまだ科学的に特定されていないが、ダニやウイルス、ストレス、開発による草花の減少などと並んで農薬の使用が原因といわれている。

野菜や果物などの植物で植物の花粉が同一個体の花のめしべに受粉し、次世代の植物をつくる自家受粉を行うものは少数派で、約80%が鳥や昆虫など動物の媒介により受粉を行っている。こうした動物はポリネーター（受粉媒介者）と呼ばれるが、なかでも重要な役割を果たしているのがミツバチだ。実に世界の90%以上の作物種の受粉を行っている。

つまり、ミツバチの減少がこのまま続けば、農産物の収穫減少による経済損失、供給不足による物価上昇や、最悪の場合には世界的な食糧危機に陥るリスクが高まるということだ。

「ミツバチは魚の一種」かを問う米国カリフォルニア州の裁判の動向はもちろん、今後のミツバチ保護に向けた国際社会の取り組みにも注目だ。

（Yahoo Japan より）

次回のイベント

お花見 4月3日(水) 京都植物園 阪急茨木市駅 9時30分集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日時： 令和6年3月7日(木) 14:00~16:00 2月の例会はなし。

場所： 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

内容： 1. 河原町・高瀬川周辺散策の振り返り
2. 4月3日(水)のお花見
3. 5月と6月のイベント 他

『街ingいばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



« 編集後記 »

- 次回の行事は4月3日(水)の京都植物園お花見です。街ingから10名他の団体7名、計17名の参加を予定しています。今回の昼食会場は事前予約なしの自由選択です。まだ申し込まれていない方でも追加申し込みOKです。
- 5月、6月もイベントを計画しています。安全に気をつけて、楽しく活動していきましょう。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://wwa.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2024年2月現在での訪問者は10,150 <前月比30の増加> となっています。

